

籠城事件写真帖

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-11-20 キーワード: 作成者: 藤本, 恒雄 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10086/47558 |

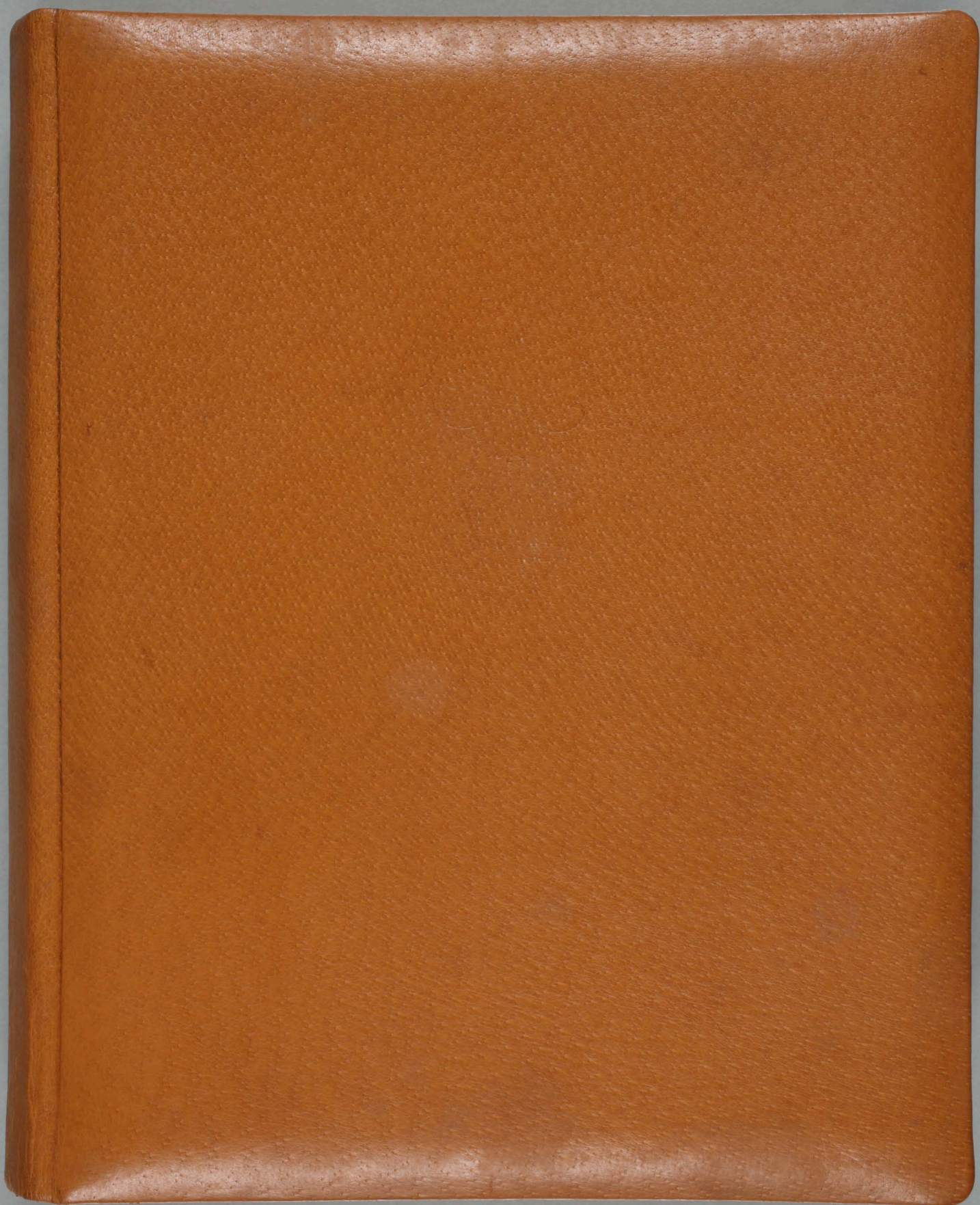


籠城事件写真帖

昭和辛丑初冬日

一橋大學長

高橋泰藏誌



細
心
果
決

根
岸
信
題

籠城事件日誌

昭和六年

自十月一日
至十月九日

十月一日(木)

行財政整理準備委員會の整理原案、東京日々新聞朝刊に掲載さる。その中に北海道帝國大学及び東京商科大学の豫科及専門部を將來に於て廢止するの件あり。

午後佐野学長より藤村如水会理事長に電話連絡、学長及堀専門部主事は文相藏相を訪問、不在の故書面を以て反対を陳情す。

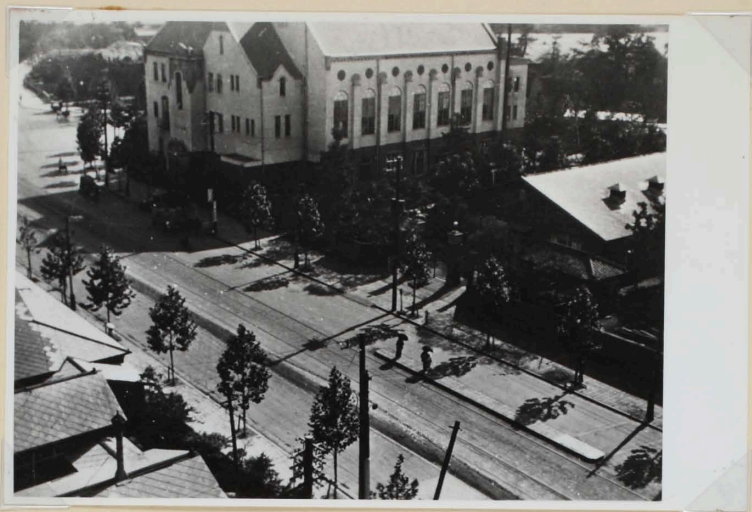
十月二日(金)

午後一時国立に於て本科豫科及専門部聯合教授會を開き、豫科専門部廢止反対の決議を爲し、学期試験無期延期決定。午後二時専門部学生は役員會を招集し、直ちに文部省を訪問、次官に陳情す。

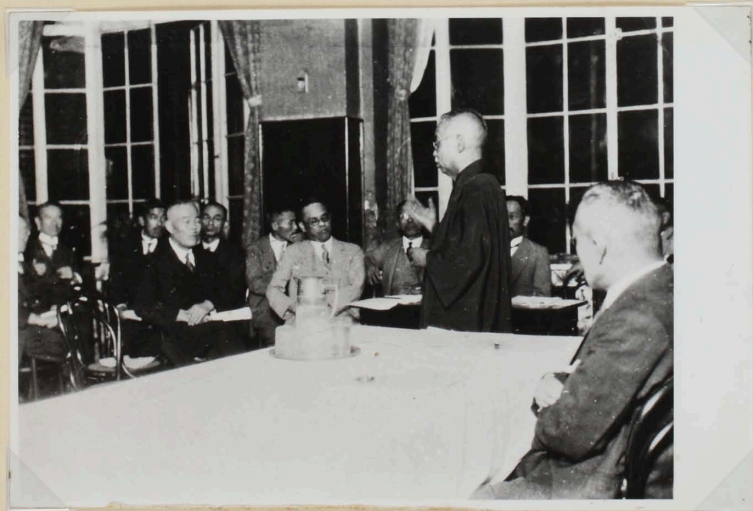
午後五時如水会臨時常務理事會開催、本問題につき協議し各方面の情報を蒐集し対策を講ずる打合せを爲す。



事件當時一橋全景 左端如水會館 右方旧圖書館。



当時の如水会館



如水会臨時常務理事会 10月2日

立てるは理事長藤村義苗氏 その陰、堀、上田両教授、



聯合教授会 於一橋出張所

木村予科主事 阿久津(予) 河合(専)
石川文吾(本) 各教授の顔が見える。

十月三日(土)

午前八時羊石神井校舎に豫科学生大会開催

午前八時羊園立校舎に専門部学生大会開催、大蔵省を訪問陳情す。

同時に養成所学生大会も開かれ専門部に合流す。

午前十一時本科学生大会開催、決議文を作成す。

午後三時一ツ橋旧校舎跡にて第一回三科合同学生大会を開催、爾後

三科一体となつて反対運動に邁進すること、し決議を爲す。

引続き隊伍を整へ大蔵省に赴かんとせるも警官に阻止され一と先づ解散。

午後七時三科委員藏相官邸にて押問答の末、漸く井上藏相に面会陳情

す。其間多数学生は官邸外に蟻集し来り、面会を終えて退出し来

れる委員を先頭に一ツ橋に引き揚げ、如水会館前にて解散せんとする

際、警官の干渉により若干の衝突を生ずるに至り、早くも前途の多

難なるを思はしめたり。

午後八時如水会館内に三科役員会を開き戦闘組織を確立す。即ち

三科選出の一橋会役員及前年度一橋会総務理事相京光雄君(本三)

の七名を以て統制部を組織し相京君を委員長とす。其他交渉部二十名

連絡部三十二名、報道部九名、会計部六名、計七十四名の委員を以

て諸部を設定、十一時散会す。



三科合同学生大会 10月3日午後3時

開会の光景 台上に立てるは相京光雄君(本三)



蔵相官邸玄関にて井上蔵相を詰問す。 3日午後7時



蔵相官邸より引揚げ来る学生



警官に取り巻かれた如水会館玄関



警官に遮られてもみ合ひ乍ら解散する学生。
於如水会館周辺

十月四日(日)

午前十時才二回学生大会開催、昨夜藏相との会見顛末を報告、

交渉委員は文相初め政官界有力者訪問に出動。

正午文相官邸前に学生雲集、警官の暴擧により検束者多数
を出す。委員は明日文相と会見の約を得て帰る。

午後二時首相官邸に学生集合、首相不在のため駒込大和村の
私邸に赴く。

委員は若槻首相に面会陳情を遂ぐ。門外の学生は警官
に解散を命ぜられしも白山上にて隊伍を整へ一橋会歌、応援
歌等を高唱しつ、一橋まで行進帰校。

午後六時才三回学生大会開催、本日各方面と面会交渉の結果
を報告、午後八時半散会

本日一ツ橋、永田町方面及びその沿道の警戒嚴重を極め一々通行
人及び通行車を停止せしめて警邏、本学の旧三井ホールに本部
を置きトラック数台に警官を乗せ永田町に派し、又本学構
内より学生の出入を阻む等弾圧猛烈を極む。



雨を衝いて学生大会に詰めかける学生、 四日朝



一橋構内の出入を一々阻止せんとする警官



文相官邸前に学生蛸集 四日正午



文相官邸前の永田小学校に押しめられた学生



トラツクで駈つけた警官の解散強制



遂に衝突、否 静穏な学生に警官が飛びつき
負傷者を出す。



交渉委員の報告を聞かぬば解散せぬとの学生の強固な意志に負け
遂に委員の報告を許す、報告するは宮地秀雄君(本三)



若槻首相私邸より隊を組んで帰校、学生大会
を待つ学生 四日午後六時。

十月五日(月)

午前八時交渉委員田中文相を官邸に訪向陳情す。昨日の約に依り、多数学生の集合せざるよう手配せるため極めて平穩裡に会見を遂ぐ。

午前十時才四回学生大会開催、文相との会見内容報告。

午後三時才五回学生大会開催、昨日來の状況に鑑み一ッ橋の旧校舍を死守、問題解決まで籠城することに決定。

一橋消費組合は直ちに準備に着手し、三科の自治食堂を動員炊出しを行ひ、せ延七百枚を初め蠟燭其他籠城必需品の調達を行ふ。夜に至つて丸屋より蒲團千五百枚搬入、茲に籠城に入る。

人員 本科 三九五名 予科 五六四名 専門部 五八〇名
計 約 一千六百名

校内警戒に當りし警官は学生自警團の組織により校外に退く。



文相官邸に於る委員と田中文相の会見 五日午前八時



籠城と決し各級会毎に設営 五日午後四時頃



予科一年組も割当の室に



籠城設管風景(一)





籠城設營風景(二)





籠城設營風景(三)





自警團配置





正門警備時特に嚴重

十月六日(火)

午前九時才六回学生大会開催、籠城聲明書を発表。

午前十時全学生縦隊を作り構内デモを行ひ氣勢を挙ぐ。

交渉委員は安達内相を官邸に訪問し面談す。

午後三時半再度構内デモを行ひ、機を見て一隊は北裏門より

突出、神保町交叉点を左折靖國神社の大鳥居前より旋回

して帰校、一隊は旧校舎の塀に副ひ一周して正門より構内

に入らんとして警官隊の阻止に会い乱闘、負傷者検束者多数

を出す。九段より歸校の本隊も裏門附近にて警官隊と大衝

突を演じ、結局検束者総数百十七名餘、負傷者六十名

の重傷者三名を出すに上る。

この夜警官の強制解散措置発動の情報もあり、薄暗き蠟

燭の灯下に在つて全員悲愴緊張の極に達す。

本日関西方面へ事件の真相を説明するたため如水会より菅礼之助

杉村廣藏、教授團より河合諄太郎諸氏、学生側より長谷川

徳次(本三)池上繁(本三)西君を派遣す。



籠城突入と報子六日附朝刊売場

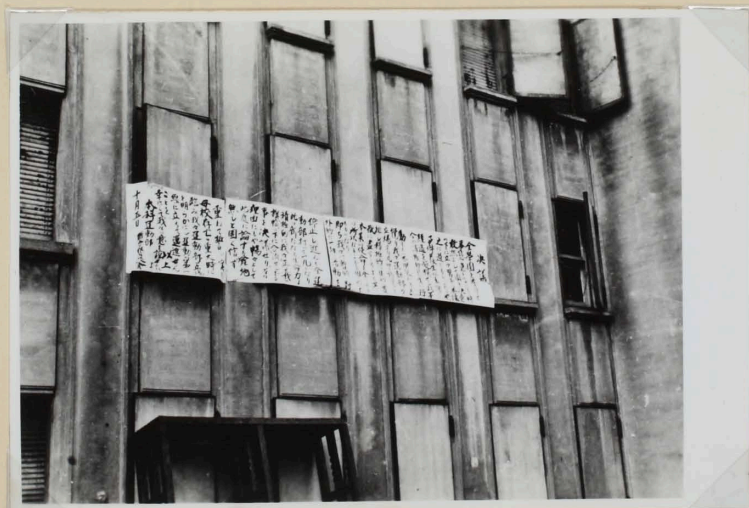


校門を隔て、睨み合ひ



思ひは同じスローガン

如泉会(本一)



本科運動部聯合会の決議文



旧図書館に立籠った一隊



構内デモ開始



六日昼間の光景





山雨到らんとして風樓に満つ



行動開始を待つ



外界偵察？



構内長蛇の列 会歌応援歌を高唱して
六日午後三時半



校内デモ最高潮



裏門より突出！ 旧三井ホールの本部よりおつとり刀
で駆けこる警官、



靖国神社前を回って一ツ橋に戻り行くデモ隊
六日午後四時頃



構内に入らんとするを阻止して大衝突を演じる警官隊
六日午後四時頃



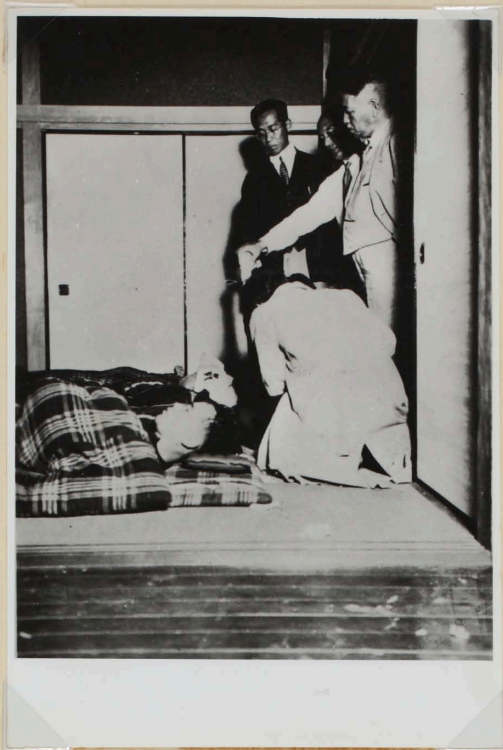
怒濤の勢、構内に突入する一隊

六日午後四時頃



九段より歸來、警官をばね飛ばして構内に入る。

六日午後四時過



重軽傷者看護

峯岡信吉豫科教授の見舞



国立所民よりトラックニ台の陣中見舞到着

六日夜

警官商大生と亂闘 教授十數名も袋叩き

學生五十余名重軽傷 百十數名檢束さる

警官は警官、商大生は商大生、教授は教授、學生は學生、それぞれがそれぞれの立場で行動してゐる。警官は警官として、商大生は商大生として、教授は教授として、學生は學生として、それぞれがそれぞれの立場で行動してゐる。警官は警官として、商大生は商大生として、教授は教授として、學生は學生として、それぞれがそれぞれの立場で行動してゐる。

解決の曙光 上田博士の奔走

學生の自發的籠城解散希望 聯合教授會も承認

上田博士は、この問題を解決するために奔走してゐる。學生は自發的に籠城を希望し、聯合教授會もこれを承認した。上田博士は、この問題を解決するために奔走してゐる。學生は自發的に籠城を希望し、聯合教授會もこれを承認した。



警官と商大生の大亂闘。きのふ一つ橋にて

血走つた目に ゆらく蠟燭の灯

バラック籠城の第夜
宿舎に籠城した警官と學生との衝突。夜は暗く、蠟燭の光が唯一の光源。警官と學生の間に緊張が漂っている。

泊つた大官 京都富

上田博士の奔走。上田博士は、この問題を解決するために奔走してゐる。學生は自發的に籠城を希望し、聯合教授會もこれを承認した。

豫科専門部廢止中止 藏相も大體承認

文相整理撤回を折衝。文相は豫科専門部の廢止中止を承認し、藏相も大體承認した。文相整理撤回の折衝も進んでいる。

教授團憤りの聲明書

教授團は、この問題を解決するために憤りの聲明書を出した。教授團は、この問題を解決するために憤りの聲明書を出した。

一少年スリの 怖い告白

「公園の子のち鳴りや
世の親達への警鐘」
一少年スリの怖い告白。公園の子のち鳴りや、世の親達への警鐘。一少年スリの怖い告白。

娘とムタマ

くゆち墮てくか
娘とムタマ。くゆち墮てくか。娘とムタマ。

十月七日(水)

午前十時才七回学生大会開催。

籠城継続準備のため各学生交替帰宅すると共に、他方室内外の衛生大掃除を実施す。

午後五時全学生帰還を待つて才八回学生大会開催、更に一層の団結を固む。

籠城人員新たに四百名を増し合計二千名、殆ど三科学生総員に達す。

昨夜来警官の監視も解かれ、稍々平穩。

此間如水会及教授団の有力者による政治工作も進み、状況勢好轉しあるも学生籠城の決意は益々牢固たるものあり。



炊出しの太釜 学生自治食堂



臨時炊事場



食堂



消費組合、配給受領



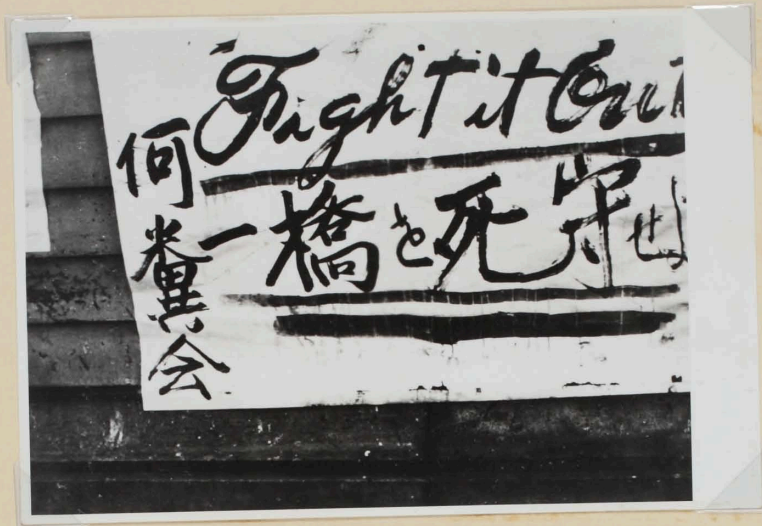
籠城生活に對する



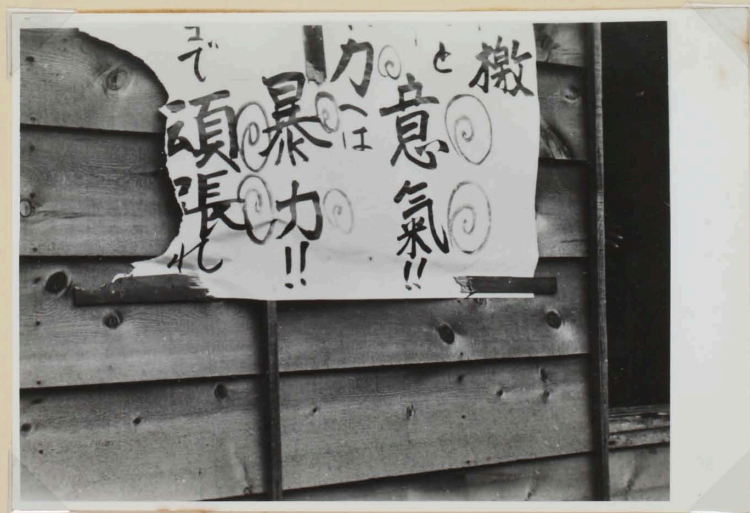


本日籠城戦線異状無し 七日





各級会毎の貼り紙、楯文、





父兄の面会



面会所風景



乱闘の後始末 消費組合



籠城生活も案外居心地よし 紫苑会(本一)

十月八日(本)

午前八時統制部は各級会毎に退学届を認むべく指令を發す。

午前十時九回学生大会開催、総退学を決議し退学届は

統制部に預り置くことに決す。

午後一時九回学生大会開催、上田貞次郎教授出席、状勢

好轉の見透しを伝ふ。

午後四時半統制部より相京、石川、藤本、横瀬、小川の五名、全

学生を代表して田中文相と会見、事態を確認す。

午後七時半九回学生大会開催、籠城解散を決議す。

聲明、吾人は文教の府の総帥たる田中現文部大臣を絶対に

信賴して茲に籠城を解く。

午後八時半解散指令を發し午後九時より十時半までに各

級毎に解散す。曰く、(一)三々五々帰宅すべし、(二)放歌禁止、

(三)絶対禁酒。

役員は猶殘留して残務を整理し、各級委員警備に當る。



退学届を認む 八日朝



次々連絡部に集り来る退学届



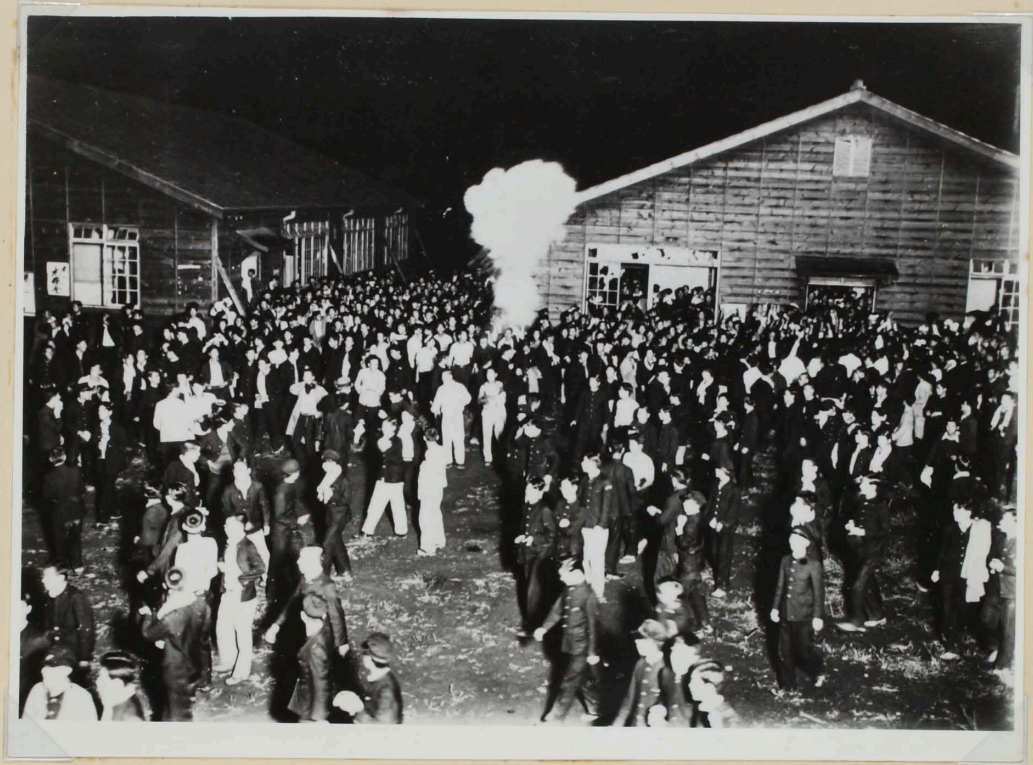
麓城の解散を学生大会に議す。

八日午後七時半

壇上は相京統制委員長 その左に藤本、横瀬、小川、各統制委員



固唾を吞んで聴き入る満堂の学生



籬城解散を決議し学生大会を散会直後の光景 八日午後八時



三々五々帰宅すべし — 解散指令



つわもの共か夢の跡。

十月九日(金)

午前十時 国立兼松講堂に於て籠城解散式を
舉行す。 神戸商大学生代表二名来校出
席す。



籠城解散式 壇上相京君
九日午前十時。



退学届百各級会に返却



当時の国立グラウンド風景

一橋三畔舉烽煙措
大慨然排擅權空手
籠城何正三誰傳血
淚箇箇中一玄

辛丑冬 頑驢逸民并書



一橋籠城滿三十周年を機とし
往時の写真七十数葉を複製して
之を編輯す

一、箱書

一橋大學長 高橋泰藏

一、題字

名譽教授 根岸 信

一、跋詩

如水會員 藤本恒雄

昭和三十六年十二月

編輯人 藤本恒雄誌